

なかなかみんなとあえないですね。いちにちもはやくコロナウイルスがすくなくなっていくますようにいのりたいですね。

「そのとき」おもうひふびょうをわずらっているひとがイエスのところにきてひざまずいてねがい、「みこころならば、わたしをきよくすることがおできになります」といった。イエスがふかくあわれんで、てをさしのべてひとにふれ「よろしい。きよくなれ」といわれると、たちまちおもうひふびょうはざり、そのひとはきよくなった。イエスはすぐにそのひとをたちさらせようとし、きびしくちゅういして、いわれた。「だれにも、なんにもはなさないようにきをつけなさい。ただ、いってさいしにからだをみせ、モーセがさだめたものをきよめのためにささげて、ひとびとにしょうめいしなさい」しかしかれはそこをたちざると、おおいにこのできごとをひとびとにつげ、いいひろめた。それで、イエスはもはやこうぜんとまちにはいることができず、まちのそとのひとのいないところにおられた。それでもひとびとはほうぼうからイエスのところにあつまってきた。

きゅうやくせいしよ(レビ 13・45～46)には、おもうひふびょうにかかったひとがどうすればいいかとかいてあります。

おもうびょうきのひとは、ひとにあうことができない、もしくうせんにひととであつたら「わたしは、けがれたものです」とさけんでいわなければならなかった、まちのなかにすむことができず、いつもひとりできびしくすごさなければならなかった。

このおそろしいびょうきはなおるほうほうも、くすりもなかった。いまは「ハンセン」といういおしゃさまがくすりをみつけて、なおるようになりました。それでいまは、そのびょうきを「ハンセンしびょう」というようになりました。

おもうひふびょうのひとはつらかったでしょう。みんなからきらわれて、のけものにされて、だれもともだちになってくれなくて、しあわせがあるはずがない、そうおもってどれほどさびしかったでしょう。

だからイエスさまにあつたとき、なんとかしてもらいたいとおもってひざまずいて、「わたしのきもち、このわたしのよわさ、このわたしのくるしみをわかっているイエスさまに「みこころ(おのぞみ)ならば、わたしをきよくすることがおできになります」といいました。イエスさまはふかくあわれんで、「わたしはのぞむ」「よろしいきよくなれ」といわれました。

イエスさまはびょうきをなおすちからをもっています。イエスさまのころはあわれみのころで、やさしいころで、おもうひふびょうのひとにてをだしてそのひとのてをとって、そのひとに「わたしはのぞむ、きよくなれ」といわれたのです。

イエスさまはだれにもいわないようにといわれたのに、そのひとはあまりにもよろこんだので、じぶんがなおったことをみんなに知らせた。もうみんなとあうことができる、イエスさまのおかげでもうさびしくないの、だまることができなかつた。

いまも、さびしくまいにちをすごしているひとがいます。そのひとびとのためにイエスさまにおねがいでいのりましょうね。